

4-02 志願者・受験者・合格者・入学者数の推移

【現状説明】 アドミッション・ポリシーに基づき、質の高い学生の確保を目標とした入試を実施しています。

大学	<p>2024年度入試の総志願者数（特別選抜を除く）は、2,642名（前年度比指数85.2）で、各入試種別の前年度比指数は総合型選抜が133.3、学校推薦型選抜が87.1、一般選抜が86.1、共通テスト利用選抜が78.1となりました。</p> <p>栄養科学科は、学校推薦型選抜が1割近く減、一般選抜・共通テスト利用選抜も減少（前年度比指数94.0）しました。全国的にも生活科学系の人気低迷の傾向が継続している中、全国トップクラスの管理栄養士国家試験合格者数と就職実績により、志願者こそ減少しましたが、毎年、本学科を第一志望とする志願者が多いことが特徴です。</p> <p>フード・マネジメント学科は、総合型選抜が増加傾向（前年度比指数147.6）にありますが、学校推薦型選抜が約3割減、一般選抜・共通テスト利用選抜が約2割減となりました。今春、第4期生が卒業し、優良食品メーカーなど食産業界への安定した就職実績を達成していることから、今後の志願回復に繋がることが期待されます。</p> <p>教育学部は、学校推薦型選抜で約1割強の減、一般選抜・共通テスト利用選抜が約2割減となりました。全国的に受験者の教育系統からの分野離れがあるものの、小学校教員採用試験において、当学部の今春の卒業生は延べ128名が現役合格しており、出願を後押しする一要因となっています。</p> <p>流通科学部は、学校推薦型選抜公募制が前年度の65名から43名と減少しましたが、前年度の競争倍率が1.71倍と高倍率であったことが要因と考えられます。一般選抜・共通テスト利用選抜も減少（前年度比指数84.3）しました。また、海外協定校への派遣留学を支援するグローバル人材育成選抜は、コロナの収束後の学生の海外志向の高まりがみられる中、志願増への追い風となることが期待されます。</p>
----	---

4-02 志願者・受験者・合格者・入学者数の推移

【現状説明】 アドミッション・ポリシーに基づき、質の高い学生の確保を目標とした入試を実施しています。

短期大学部	<p>2024年度入試の総志願者数（特別選抜を除く）は、465名（前年度比指数85.2）でしたが、キャリア開発学科と幼児保育学科で実施している総合型選抜においては、前年度比指数114.7と増加しました。なお学校推薦型選抜は前年度指数が80.9、一般選抜が83.5、共通テスト利用が77.1と大きく減少しました。</p> <p>食物栄養学科では、学校推薦型選抜公募制が前年度比指数62.1と落ち込みましたが、2025年度入試より総合型選抜を実施することになっており、年内入試での志願確保が期待されます。</p> <p>キャリア開発学科は、全体を通じて志願者数が減少（前年度比指数72.5）しましたが、今春卒業生の就職実績は地元優良企業、特に地銀への複数名就職など好調が続いており、今後の志願増の追い風となっています。</p> <p>幼児保育学科は、2022年度入試から実施した総合型選抜が多くの志願（44名）を集めている中、全体では前年度比指数81.4と減少しました。特に、県外においては地元の養成校へ流れているものと予測されます。</p> <p>なお一般選抜においては、大学・短期大学部間での第二志望制度を設けており、制度を利用した入学者も増加しました。</p> <p>また、短期大学部全体で編入学支援を強化しており、毎年40名前後が大学3年次へ編入学をしていますが、その多くが中村学園大学への編入学で、大学との併設により入学後の進路選択の幅が広がっています。</p> <p>例年の安定した就職率も加わり、高校現場のみならず、社会からも栄養士や保育士、幼稚園教諭などの免許や資格に強い短大であること、キャリア開発学科の正規雇用での就職支援に対しても一定の評価を受けています。</p>
-------	---

4-02 志願者・受験者・合格者・入学者数の推移

【現状説明】 アドミッション・ポリシーに基づき、質の高い学生の確保を目標とした入試を実施しています。

大学院	<p>2024 年度入試の総志願者数は、昨年度と同じく 15 名と横ばいです。</p> <p>3 研究科の中で唯一、博士後期課程がある栄養科学研究科では、2019 年度からの過去 6 年間、入学定員を満たしていない状況が続いています。</p> <p>教育学研究科においては、社会人特別入学選考において毎年一定数の志願がありますが、2019 年度から開設した社会人 1 年生（教育学研究科修士課程）においては開設以降、志願者が出ていない状況です。</p> <p>流通科学研究科では、志願が前年度比半減となり、現役大学生、社会人、外国人いずれも安定的な志願の確保が課題となっています。</p> <p>進学促進および内部進学者の維持・向上に向けた取り組みとして、中村学園大学卒業生を対象にした給付型の奨学金制度を設け、経済的な負担軽減を図っています。</p> <p>また、各研究科の入試説明会開催においては、学内外への告知強化やオンライン開催に加え、ホームページに大学院案内を掲載するなど、教育・研究内容を広く公開しており、今後の志願者および入学者の安定的な確保に努めています。</p>
-----	--